

創業 1922(大正11)年～1954(昭和29)年

1 | 伊藤鑄造所

- 1922 (大正 11) 年に工場を建設。こしき炉1基を設置して工員20人で銑鉄鑄物の生産を開始。
- 「旗印」ブランドの手押しポンプの製作、さらには調車、軸受など伝導部品を手掛け、その販売を目的にイトウ伝導キカイ店を設立。その結果、国内をはじめとして朝鮮、満州、台湾にまで販路が広がり、業界のトップメーカーに成長

2 | 伊藤同族

- 1934 (昭和 9) 年 伊藤兄弟の事業を合体し伊藤同族会社を設立して資材の一括入手や事業の拡大を図った

3 | 伊藤同族工業

- 1938 (昭和 13) 年 第3工場と蟹江工場の分離独立により伊藤同族工業に社名を変更

4 | 伊藤機工

- 1940 (昭和 15) 年 第1工場と第2工場の分離独立により伊藤機工に社名変更
- 1941 (昭和 16) 年 大隈鉄工所の指導の下で各種工作機械の製作を開始。その後豊川海軍工廠の指定を受けて軍需製品の生産を行う
- 1945 (昭和 20) 年 終戦により約600人の従業員を解雇し、工場を閉鎖



伊藤同族株式会社時代の堀江工場（後の伊藤機工）

鳴浜工場に移管するまで堀江工場が、長い間伊藤機工の本社工場であった

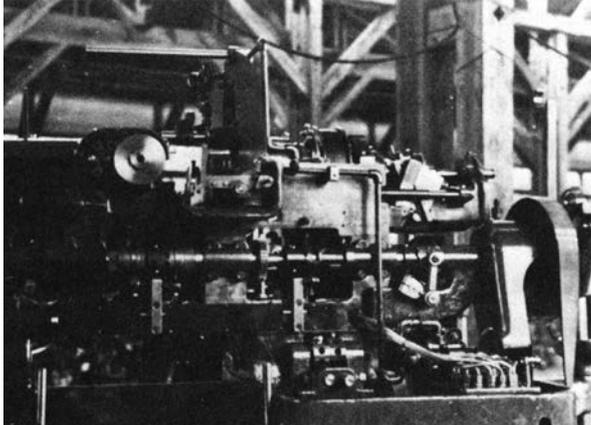
- ・ 1941 (昭和 16) 年 生産を全て鳴浜工場に移管
- ・ 1943 (昭和 18) 年 本社機能を鳴浜工場に移管



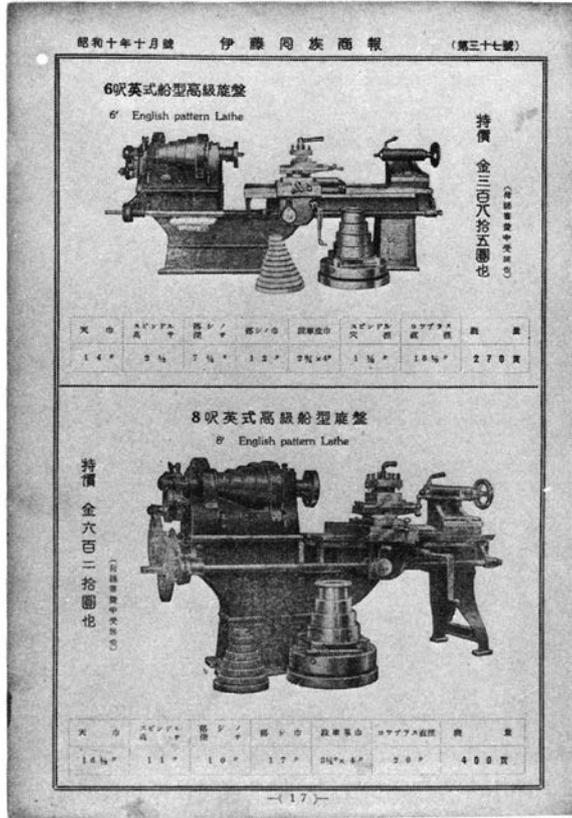
伊藤同族商報 (1935 (昭和10)年10月号)



当時としては珍しくカタログによる通信販売で日本全国への販売を試みていた

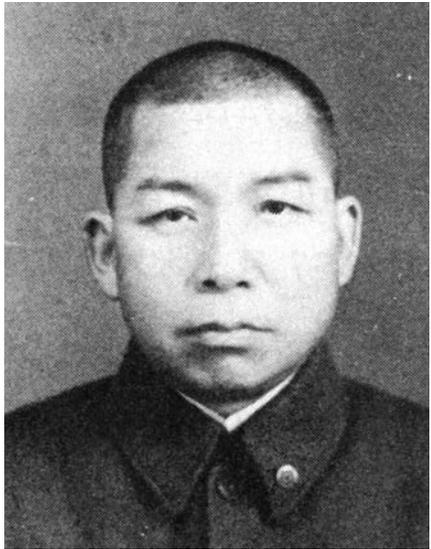


1945 (昭和20)年試作に成功した旋盤



1935 (昭和10)年頃製作していた旋盤

豊川海軍工廠への試作に成功して技術の高さを誇ったが、終戦により生産は中断



戦時中の伊藤留吉

工作機械分野への挑戦を試みていた

再興

1946(昭和21)年～1969(昭和44)年

1 | 戦後の再興

- 戦災で全てを失いゼロから再出発。植田山の納屋で鍋・釜・真鍮鋳物で事業再開。鋳物用銑鉄の試作を開始し鳴浜工場で量産。その後、植田山工場、堀江工場を閉鎖して鳴浜工場に集約

2 | 経営再建

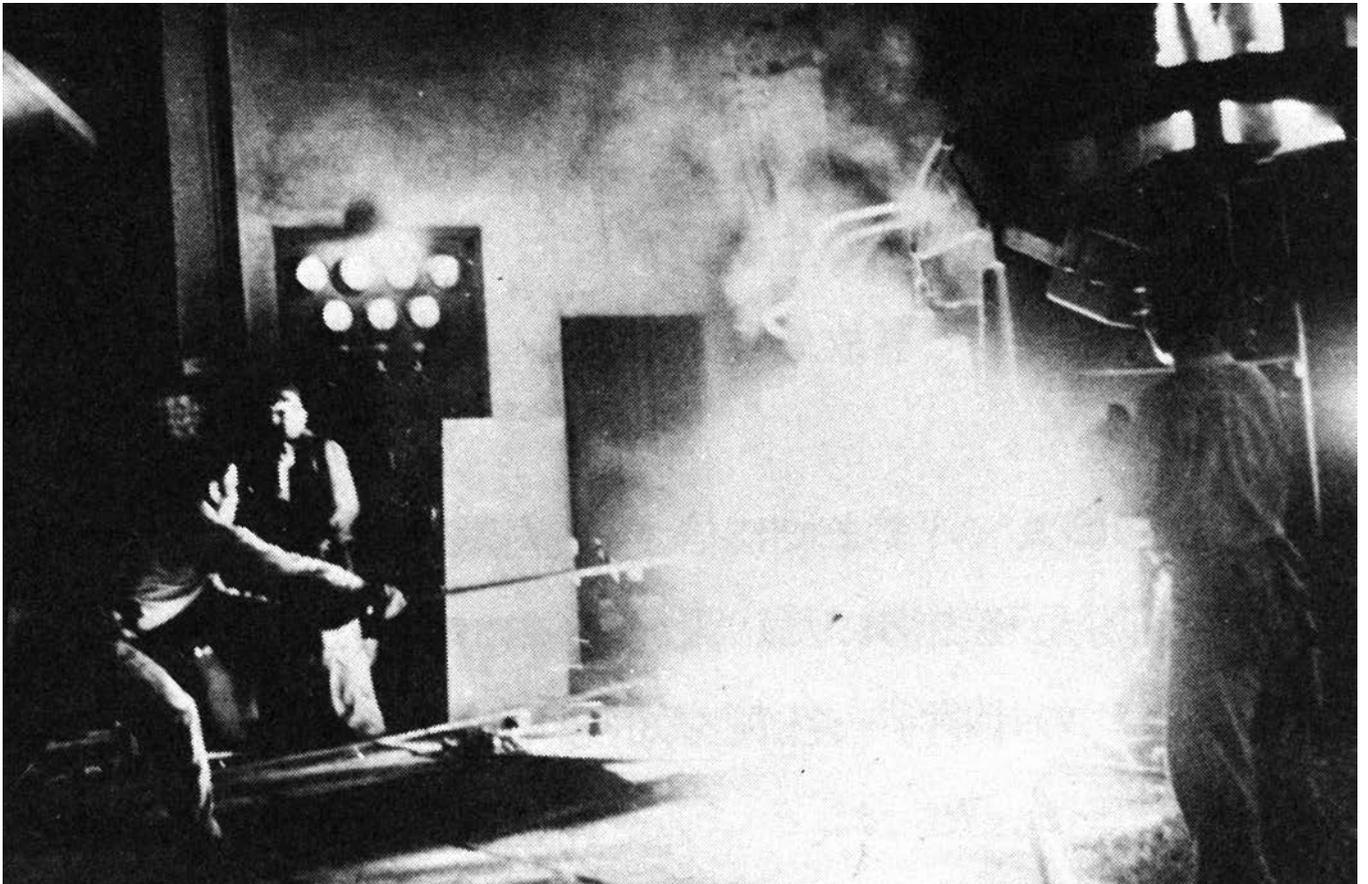
- 1954(昭和29)年 朝鮮特需の反動により不況で経営困難に陥り、南宮鑄工に社名を変更
- 1955(昭和30)年 経営再建のためにショット事業参入を指向し、苦労を重ねながらアイアンショット・グリットの製造・販売開始。その後、カットワイヤーの販売を開始
- 1957(昭和32)年 経営再建が図れたことで南宮鑄工から元の社名である伊藤機工に改称

3 | 事業の拡大

- ショット事業の事業拡大に伴い1968(昭和43)年にグリット工場を増設したが鳴浜工場では手狭になったため新工場として知多工場の建設を決意
- ショット事業の成功に伴いショットマシンの製作に着手し、鳴浜工場内に機械工場を設置してブラストマシンの製作を開始

4 | 従業員への配慮

- 業績の拡大に伴い、従業員への配慮として慰霊祭を挙行。また中断していた慰安旅行を再開

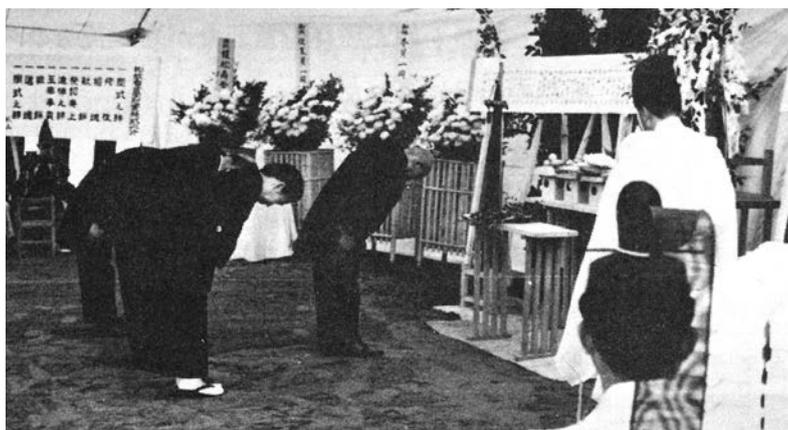


鳴浜工場における3トンアーク炉の操業



販売店会議風景

競合他社との激しい競争に打ち勝つためには従来の東京、名古屋を拠点とした販売活動では不十分であるとして関西地区を強化。さらに全国販売店会議を開催し、販売の強化を図った



慰霊祭 (1962 (昭和37)年11月4日)



伊藤留吉の希望で会社在籍中に亡くなった人々の霊を弔うことを目的として、戦前・戦中・戦後の従業員たちが多数集まり挙行された



戦前の慰安旅行 (多度大社にて 1940 (昭和15)年)



慰安旅行 (浅間温泉にて 1969 (昭和44)年)

従業員への配慮として、戦後中断していた慰安旅行を復活させて従業員間の親睦を図った

成長 1969(昭和44)年～1985(昭和60)年

1 | 新体制

- 1970 (昭和45) 年 創業者である伊藤留吉が死去。伊藤洋治が第2代社長に就任

2 | ショット事業

- 1970 (昭和45) 年 知多工場が完成し、ショットの量産開始。生産能力が増強されたことで海外への販売を開始
- 1973 (昭和48) 年 IKK・ド・ブラジル有限会社設立

3 | 鑄造事業

- 1972 (昭和47) 年 耐熱鑄鋼品の研究試作を開始し、熱処理用トレイ、焼却炉用火格子の販売を開始

4 | 機械事業

- 1971 (昭和46) 年 ショットブラストマシン1号機を出荷
- 1974 (昭和49) 年 グットマン社 (西独) と技術提携
- 1975 (昭和50) 年 中部IKKサービスを設立し販売促進
- 1984 (昭和59) 年 アービンインダストリー社と技術提携

5 | 新事業への参入

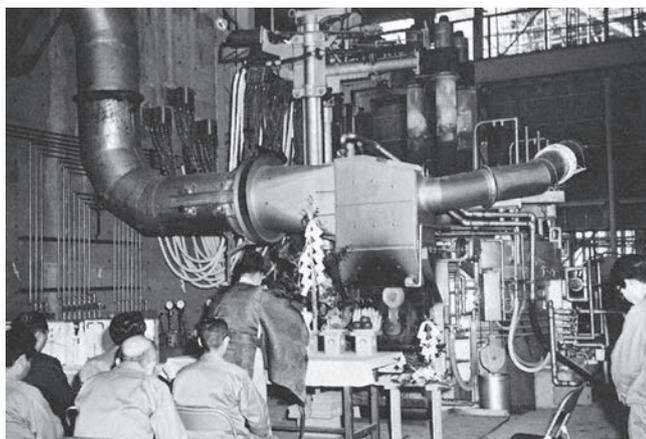
- 1975 (昭和50) 年 コスモを設立し新事業への参入を画策



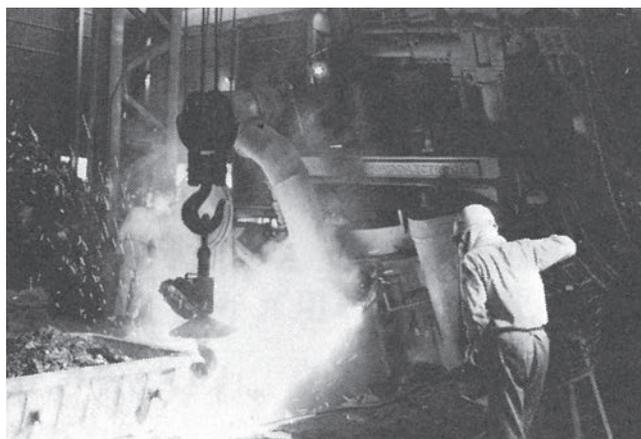
知多工場全景 (1980 (昭和55)年)



知多工場正門 (1980 (昭和55)年)



知多工場5トンアーク炉火入れ式



知多工場5トンアーク炉初出鋼

知多工場5トンアーク炉火入れ式・初出鋼（1970（昭和45）年3月17日）



竣工式当日の知多工場（1970（昭和45）年6月1日）



知多工場竣工記念パーティー
（1970（昭和45）年6月1日）



厚生センター（1974（昭和49）年完成）



野球場の開場式（1974（昭和49）年10月）



第1回社内運動会（1978（昭和53）年5月）



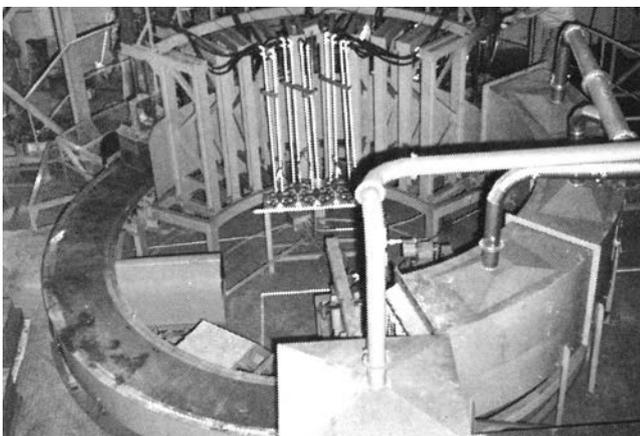
本社・鳴浜工場全景



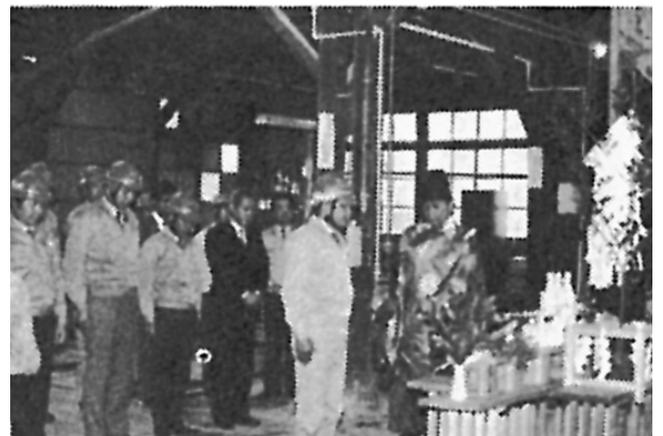
本社・鳴浜工場正門

本社・鳴浜工場（1980（昭和55）年）

ショット事業を知多工場に全面移管。
鳴浜工場では鑄造事業を拡充



シェル型連続鑄造ターンテーブル



フラン鑄型砂混錬砂再生装置初動式
（1984（昭和59）年3月21日）



伊藤留吉の社葬（於覚王山日泰寺1970（昭和45）年1月24日）



伊藤志津の葬儀（1983（昭和58）年）

永年支えあってきた留吉・志津の夫婦がこの世を去り、伊藤機工の一つの時代に
終わりを告げ、新しい時代へと移行した



IKK・ド・ブラジル株式会社ジャカレイ工場



アーヴィンインダストリー社との技術提携
（1984（昭和59）年8月3日）

海外での生産拠点としてブラジルに進出とともに海外技術を積極的に導入



創業60周年記念式典（1982（昭和57）年6月1日）



『IKKだより』創刊号（1982（昭和57）年4月発刊）

1982（昭和57）年創業60周年を迎え、6月1日に記念式典を挙行。
また60周年を記念して社内報『IKKだより』を発刊

飛躍

1985(昭和60)年～1994(平成6)年

1 | ショット事業の飛躍

- 1985(昭和60)年 ショット部門収益改善プロジェクト(PX)が活動開始
- 1988(昭和63)年 サイアムIKK設立。タイでショットの生産および東南アジア各国への輸出開始
- 1994(平成6)年 新製鋼工場完成

2 | 鑄造事業の飛躍

- 1985(昭和60)年 イトウ精工を設立し、自動車用鑄物部品の製造・販売開始
- 1991(平成3)年 新鑄造工場(鑄造第2工場)完成

3 | ショットブラストマシン事業の飛躍

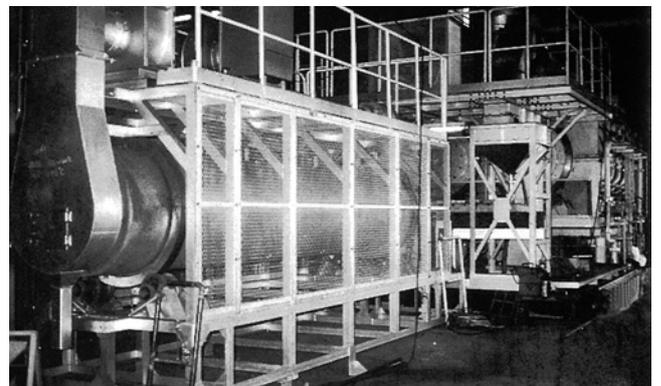
- 1984(昭和59)年 東豊機械への資本参加により販売を強化
- 1991(平成3)年 アイディマシンを設立し、新分野への拡販を図る



完成した新製鋼工場
(1994(平成6)年7月6日)

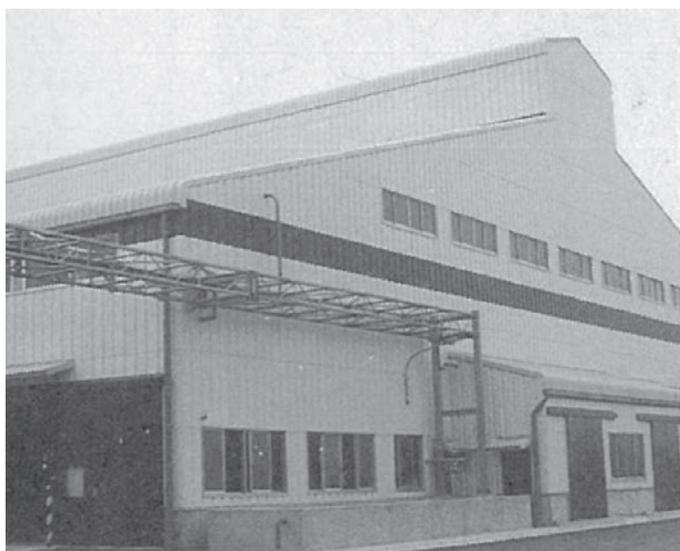


新製鋼工場竣工式(1994(平成6)年8月1日)



PXプロジェクトで導入した熱処理炉
(1987(昭和62)年5月25日)

ショット部門の収益改善を目的に1985(昭和60)年からショット部門収益改善プロジェクト(PX)がスタート。そして1994(平成6)年に新製鋼工場を建設し、稼働を開始した



完成した新鑄造工場 (1991 (平成3)年)



完成した試験センターとシェルモールド工場
(1985 (昭和60)年7月31日)



完成した鑄造事務所 (1991 (平成3)年)



新鑄造工場竣工式
(1991 (平成3)年9月1日)



知多工場に1985 (昭和60)年シェルモールド工場と試験センターが完成し、翌1986 (昭和61)年から本格稼働。1991 (平成3)年には自硬性鑄型の新鑄造工場が完成。鑄造事業の本社鳴浜工場から知多工場移管がなされた



完成したアイディマシンの日向工場
(1992 (平成4)年5月22日)



完成したサイアムIKKのショット工場
(1989 (平成1)年4月18日)

1991 (平成3)年に販路拡大を目的として株式会社大鑄と合併で株式会社アイディマシン (IDM) を設立

ブラジルに次ぎ第2海外拠点としてサイアムIKK株式会社が稼働開始

選択と集中 1995(平成7)年～2006(平成18)年

1 | 新体制

- 1996(平成8)年 伊藤千衛が第3代社長に就任
- 2002(平成14)年 伊藤洋治会長が死去

2 | 選択と集中

①ショット事業の再構築

- 1997(平成9)年 伊藤機工のショット部門を分離しWA社と合併でIKKショットを設立
- 1998(平成10)年 IKK・ド・ブラジル、サイアムIKKをホイールアブレーター・アルバート(WA)社に売却

②経営の再構築

- 1995(平成7)年 IKK東北設立。新分野へ参入
特品事業部を新設。新分野へ参入
- 1998(平成10)年 本社・機械事業部を本社鳴浜工場から知多工場に移転。本社鳴浜工場跡地を商業施設に賃貸
- 2003(平成15)年 伊藤機工(大連)有限公司設立
- 2010(平成22)年 伊藤機工(天津)鑄材有限公司設立

③ISO認証取得活動

- 2001(平成13)年 ISO14001 認証取得
- 2005(平成17)年～2015(平成27)年 ISO9001 範囲を拡大しながら順次認証取得

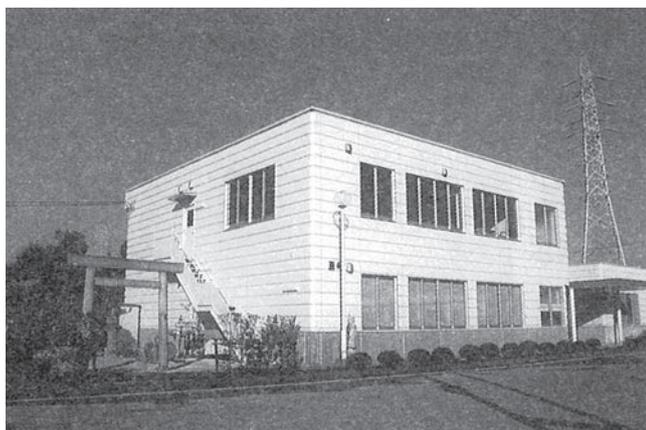


IKKショットの合併事業契約書に署名した
伊藤機工、WA社、ムルガ社3社の代表
(1997(平成9)年10月15日)



IKK・ド・ブラジルの合併契約に調印するWA社社長
(1995(平成7)年9月13日)

ショット事業の合併による世界最大のWAグループとの提携による共存共栄の選択
伊藤機工のショット事業から事実上撤退



完成した伊藤機工本部事務所
(1998〔平成10〕年11月20日)



本部事務所と伊藤神社の造営式
(1998〔平成10〕年11月20日)



完成した機械事業部の新工場
(1998〔平成10〕年3月23日)



完成した機械事業部の組立工場
(2008〔平成20〕年4月1日)

本社・機械事業を本社鳴浜工場から知多工場に全面移設し、さらに拡充。本社鳴浜工場跡地は商業施設に賃貸



ISO 審査風景



伊藤洋治会長の社葬（於覚王山日泰寺）
(2002〔平成14〕年12月18日)

・ISO14001

2001（平成13）年認証取得

・ISO 9001

2005（平成17）年 自動車関係部品の認証取得

2009（平成21）年 ビーズを含めた拡大認証取得

2014（平成26）年 鋳造部品・製缶品を含めた拡大認証取得

2015（平成27）年 機械事業部を含めた拡大認証取得



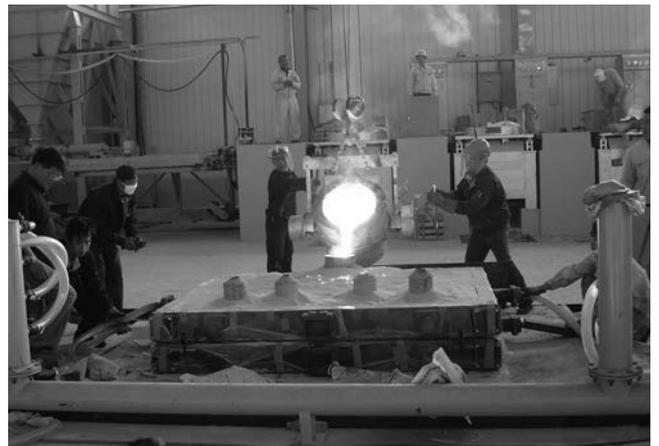
完成した新社屋 (2007 (平成19)年6月6日)



新工場竣工式 (2007 (平成19)年6月8日)



初溶解 (2007 (平成19)年5月8日)



初注湯 (2007 (平成19)年5月14日)

伊藤機工 (大連)有限公司

2003 (平成15)年 伊藤機工 (大連) 有限公司設立

2007 (平成19)年 Vプロセスを鑄造プロセスとした工場完成。量産開始



第1回大連研修・交流会（2008（平成20）年9月）



第2回大連研修・交流会（2019（令和1）年10月）

伊藤機工の全従業員を対象に大連での研修・交流会を実施し、相互理解および懇親を図った



伊藤機工（天津）鑄材有限公司

2001（平成13）年 人工砂を輸入して販売を開始

2010（平成22）年 伊藤機工（天津）鑄材有限公司設立。

日本への輸出業務と中国国内の販売を図った



IKK東北社屋

IKK東北株式会社



1995（平成7）年 岩手県奥州市にIKK東北を設立。新分野への参入を図った

次の時代へ 2007(平成19)年～現在

1 | 新体制

- 2018 (平成30) 年 小西英明が第4代社長に就任
- 2021 (令和3) 年 竹内 肇が第5代社長に就任

2 | 鑄造事業

- 2006 (平成18) 年 大同キャスティングスより縦型遠心鑄造法を譲り受けて事業開始
- 2016 (平成28) 年 横型遠心鑄造法に強みを持つ鳥羽テクノメタルの全株式を取得
タイにMETROPOLIS ENGINEERING CO., LTD.と合併で
METROPOLIS-IKK CO., LTD.を設立

3 | 機械事業

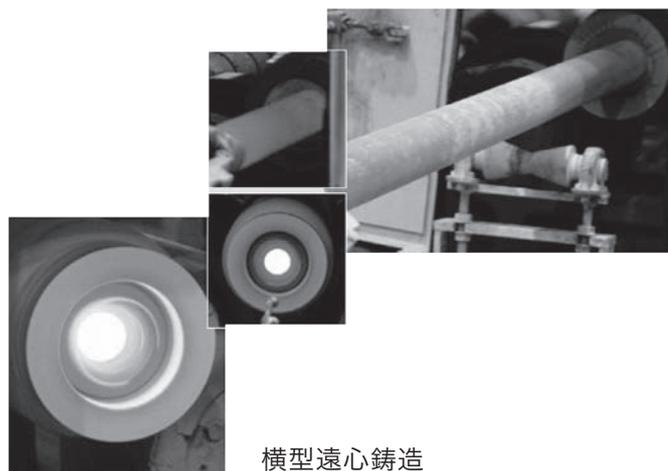
- 2018 (平成30) 年 日神金属の株式を40%取得。機械事業の拡大を図る

4 | 特品事業

- 2016 (平成28) 年 新誘導炉 (600kg) を導入して事業拡大および新分野への参入を図った



鳥羽テクノメタル本社事務所・工場



横型遠心鑄造



鳥羽テクノメタルの従業員を前に挨拶をする
伊藤千衛会長 (2016 (平成28)年9月30日)



鑄造第1工場の新誘導炉火入れ式
(2007 (平成19)年10月24日)



鑄造第2工場の新誘導炉火入れ式
(2013 (平成25)年5月9日)



特品工場の新誘導炉火入れ式
(2016 (平成28)年3月21日)

ショット事業から撤退し、既存の3事業部の
強化を図るため合理化に着手



IKKM 社屋



鑄込み後風景
METROPOLIS-IKK CO., LTD. (IKKM)

伊藤鑄工と伊藤機工グループのコラボによる
販売活動を開始

新プロセスとしてロストワックスに挑戦しながら、
新たな市場を求めてタイへ進出